

## 平成29年度「電波の日・情報通信月間」記念式典 式 辞

本日、ここに愛媛県知事 中村時広様、四国経済連合会副会長・情報化委員会委員長 高橋祐二様代理の連合会専務理事 石原俊輔様、愛媛県商工会議所連合会会頭 佐伯要様、愛媛県法人会連合会会長 森田浩治様、元郵政大臣 関谷勝嗣先生をはじめ、多数の皆様のご臨席をいただき、「平成29年度電波の日・情報通信月間記念式典」を挙げるにあたり、ご挨拶を申し上げます。

まず初めに、本日、東京で挙行される中央式典において、南海放送株式会社が「電波の日」総務大臣表彰を、徳島県のNPOグリーンバレーの大南信也理事長が「情報通信月間」総務大臣表彰を、愛媛大学大学院の小林真也教授が「情報通信功労賞」を、さらに愛媛県立長浜高等学校が「地域発デジタルコンテンツ」総務大臣奨励賞を受賞されますことを、心からお慶びを申し上げます。四国から4件もの中央表彰があったことは、今、四国地域がICTの利活用と実装において全国の先進地・モデルとして歩んでいることの現れとして、四国局長として誇りに思っております。

南海放送の田中社長は、本日、東京の帝国ホテルでの中央式典出席のため、会長の代理として、秋川専務に務めていただいています。

「電波の日」は、本年で67回目、「情報通信月間」は、33回目となります。この間、四国の情報通信は大きく進展し、今さらなる成長を大きく遂げようとしています。

あらゆるモノがインターネットにつながり、データの収集・解析・活用により新たな価値の創出が可能となる「I o T」時代が到来しています。I o T、ビッグデータ、A I の地域における実装が、住民サービスの向上、地域経済活性化、地域課題の解決に大きく貢献すると期待されています。総務省では、「地域 I o T の実装」について、2020年までに産学官が連携して、課題を克服しつつ、その推進を図るためのロードマップを策定しました。

この動きは、昨年4月に四国で開催されたG7情報通信大臣会合において、I o T・A I の推進と共同ルールづくりが行われたことから国内外に加速度的に広がり、その意味で四国はI o T・A I の世界的な聖地になったと言えます。

四国内において、G7大臣会合を契機として、本日も臨席の中村知事はじめ4県知事、そして四国経済連合会はじめ経済界、大学・高専のリーダーシップのもと、全国に先駆けたI C T実装の動きが日々進んでいます。当局主催の宇和島市と四万十市でのI C T実装の勉強会は、県域を越えた盛況でした。今後とも、四国発のI C T実装の伝道者である、エバンジェリストの活躍をお助けしたいと思っています。

この一年、

徳島では、全国屈指の光ブロードバンド環境を活用したサテライトオフィス誘致の実績を重ね、ドイツでのI C T見本市には、神山町のサテライトオフィスが出展し、誘致活動を行いました。

観光W i - F i 整備の加速化とともに、県に、熊谷副知事を統括

本部長とする、I o T利活用推進統括本部が新設されるなど、I C T実装のための「徳島発日本モデル」が展開されつつあります。

高知では、県にI o T推進室が新設され、A I企業を積極的に誘致し、経済同友会が全国ではじめて高知県をI o T協業のパートナーとしました。高知高専は、サイバーセキュリティ人材の育成の全国的な拠点となり、高知工科大、高知高専でのI C T人材の地産地消が芽生えつつあります。

大臣会合をホストした香川では、I C Tによる高松中心街のスマート化、オープン・データ利活用、I o T技術の導入が進んでいます。サミットの契機となった、かがわ発遠隔医療システムは、国内外で高く評価され、国際展開が進んでいます。提唱者の原香川大学教授は、春の園遊会に招かれました。

旧詫間電波高専である香川高専からは、A R：拡張現実という、I C Tの世界と放射線防護の話をつなげた研究で、ノーベル賞授賞式に招待される学生が現れました。

ここ愛媛では、全県立高校への電子黒板の導入、全国展開が進む「えひめ方式」婚活システムの拡張、多言語対応防災アプリの開発など「I C T実装予算」が打ち出されました。さらに、中村知事のご尽力により、N T T西日本をはじめ、名だたるI C T企業のサポート拠点が次々に拡充され、地域創生の実が示されています。

同じ周波数でどこでも聞ける同期放送による南海放送のF M補完放送の開始は全国初。無線の光ファイバーと言える地域B W Aを活

用した愛媛CATVの「いよてつ」市内電車内でのWi-Fi環境整備や愛南町での遠隔授業など、全国をリードする地域BWA「実装」サービスが始まりました。神山愛媛CATV会長は、桜を見る会に招かれました。

サイバーセキュリティシンポジウム道後は、6回目となり産学官の専門家がのべ1000人以上参加し、オリ・パラ対策の人材を送り出すまでになりました。

弓削高専の学生が考えたICTビジネスプランが、ベンチャービジネス全国大会で総務大臣賞を受け、中村知事からは「愛顔のえひめ知事表彰」をいただきました。長浜高校はじめ、次世代を担うICT人材が着実に育ちつつあります。

伊予銀行はじめ、四国4地銀によるアライアンスは、フィンテックとICT人材育成に大きく寄与する画期的な取り組みです。重ねて、放送コンテンツの海外展開では、インバウンド推進とも連携した海外への情報発信として、4県の日本テレビ系列各局による「四国連合」がタイ向け四国発番組の配信を予定しています。NHKワールドとともに、四国のコンテンツが海外に発信され、観光誘客、マーケット強化に大きく寄与することが期待されています。

四国の条件不利の克服には、通信・放送の各社が意を注いでこられました。このことを前提として、四国のICT実装は着実に進んでいます。さらに、四国において、何より大切なのは、南海トラフ地震に対して、情報通信の備えを万全にすることです。

防災上有意義な、FM補完放送については、南海放送に次いで、

全国で初めてNHKに徳島、愛媛、高知に3県同時に予備免許を行いました。徳島に次いで、高知の漁業無線でも、地震津波発生を迅速に伝えるシステムの構築に努められています。

「君の名は」、「シン・ゴジラ」でも、シンボリックに登場した防災行政無線や防災ラジオの効用は、全国に先駆けて四国に行き渡っています。

私自身、4県の防災・水防訓練には必ず出席させていただく中、伊方町の住民避難方策についてはタスクフォースを作り、愛媛県とともに、住民の安心安全に心を尽くしております。

最近のICT実装の話題としては、管内のCATVが4K放送を全国的にリード。新たなICT利用を国内外に広めるため、燧灘でフィールドテストを行ない、小豆島の土庄町はじめ、鳥獣被害対策にもICTが実装されています。

電波の適正利用では、関係機関の顕彰を行うとともに、管内での先進的な実装を視野に入れつつ、医療分野での環境整備に、全国に先駆けて取り組もうと思います。

四国の人材と知見を活かし、我が国の将来に貢献していくため、当局では、平成29年度の目標を「ICTを実装、IoT・AIで創生、輝く四国」と決めました。

「条件不利・課題先進地」から「ICT実装・地方創生・地域創生先進地」へ、四国は次のステージに大きく歩んでいます。

その成果が、中央式典での例のない4件の表彰につながったもの

と存じます。

本日表彰をお受けになられる皆様に、改めて心からお祝いを申し上げます。

ご臨席の皆様の今後一層のご活躍と、ICT実装で輝く四国の発展を期して、式辞とさせていただきます。

平成29年6月1日 四国総合通信局長 佐藤 裁也